社　会　科

研究主題　自ら調べ，まとめ，考える力を育てる社会科学習指導の在り方

研究の概要及び索引語

本研究では，研究主題「自ら調べ，まとめ，考える力を育てる社会科学習指導の在り方」のもとに，県内の小・中・高等学校社会科担当教員及び児童生徒の意識・実態調査を行い，社会科学習指導上の諸問題を明らかにした。そして，小・中・高等学校において「自ら調べ，まとめ，考える力」の育成を図るために，「学習過程の工夫」と「追究の場の工夫」に視点を当てて授業研究を行い，社会科学習指導の改善の方向を探ることにした。

索引語：社会科，問題解決能力，学習過程，思考力

目　　次

Ⅰ　研究の趣旨 …… 30

Ⅱ　研究の内容 …… 30

1　研究主題についての基本的な考え方 …… 30

2　研究主題にかかわる意識・実態調査 …… 31

3　授業研究の実践 …… 36

【授業研究１】　小学校第５学年「伝統的な技術を生かした工業」 …… 36
【授業研究２】　中学校第３学年「経済とわたしたちの生活」 …… 42
【授業研究３】　高等学校第３学年地理「食料需給における国際化の進展」 …… 47
【授業研究４】　高等学校第３学年政治経済「女性差別について」 …… 52

Ⅲ　研究のまとめ …… 57

Ⅰ　研究の趣旨

社会科においては，「自ら調べ，まとめ，考える力を育てる社会科学習指導の在り方」の研究主題を設定した。社会科の学習指導では，自ら考え主体的に判断し，表現できる資質や能力の育成が基礎的・基本的な内容の中核をなすものととらえた。

本研究は，２か年継続として行い，昨年度は，研究主題に基づいて県内の小学校，中学校及び高等学校の社会科担当教員，及び児童生徒に対して社会科学習に関する意識・実態調査及び授業研究を行い，その分析をもとに，社会科学習指導上の諸問題を明らかにした。本年度は，明らかにされた諸問題の改善に向けて，「自ら調べ，まとめ，考える力」の育成を図るために「学習過程の工夫」と「児童生徒一人一人のよさを生かす追究の場の工夫」に視点を当て，授業研究を行った。

Ⅱ　研究の内容

1　研究主題についての基本的な考え方

(1)「自ら調べ，まとめ，考える」とは

研究主題にある「自ら調べ，まとめ，考える」とは，児童生徒一人一人が社会的事象に進んでかかわり，自分の問題を見付け，自分の意志や考え，願いなどを十分に発揮しながら，それを解決する学習活動に主体的，意欲的に取り組むことであるととらえた。さらに，「自ら調べ，まとめ，考える力」を育てるとは，問題解決能力を育てることと考えた。

(2)「自ら調べ，まとめ，考える力」の育成を図る学習過程の工夫

問題解決の過程や結果において，社会的事象に対して思考したり判断したりする力，自分なりの考えを表現する力，新たな問題解決に必要な知識や技能を身に付ける力などの能力を獲得していくとともに，自ら学ぶことの楽しさや成就感を味わい，学ぶ意欲や主体的な学習態度が身に付くようにしたい。そのために，児童生徒自らが意欲をもって問題を見付け，主体的に解決していく問題解決型の学習過程を構成するとともに，学習過程を固定せず，弾力的にとらえ，児童生徒が学習活動をつくり組み立てながら展開できるようにした。

(3) 児童生徒一人一人のよさを生かす追究の場の工夫

問題解決能力を育てるには，自分は何をどのように追究して問題の解決を図るのかという学習の仕方を身に付けることが大切である。そのために，一人一人が自分の思いやこだわりをもとに学習問題を設定し，解決の方法や見通しを立て，自分のよさを生かしながら調査結果をまとめ，表現できるような場を設定することにした。

(4) 昨年度の課題の解明に向けての手だて

昨年度の授業研究の中で，小学校では，「『子供が学習活動をつくる』ことの問い直しと質的な深まりを図ること」「子供の学習活動と教師の具体的な支援の在り方」,中学校では,「生徒の問題意識をもとにした切実性のある学習問題設定場面の工夫」,高等学校では,「学習問題設定の在り方」「学習問題解決のための学習過程の工夫」の課題が提起された。本年度は，昨年度提起された課題を踏まえ，児童生徒が自己の問題意識に基づいて主体的に課題解決に向かうために，社会的事象の提示方法を工夫し，追究方法や表現方法を自己選択，自己決定する場を設けることによって課題究明の手だてとした。

2　研究主題にかかわる意識・実態調査

(1) 調査の趣旨

「自ら調べ，まとめ，考える力を育てる社会科学習指導の在り方」に関する意識・実態調査を本県の小学校，中学校及び高等学校の社会科担当教員と児童生徒を対象に行い，社会科学習に関する実態を把握するとともに，社会科学習指導の諸問題を明らかにし，授業改善の方法を探る。

(2) 調査方法

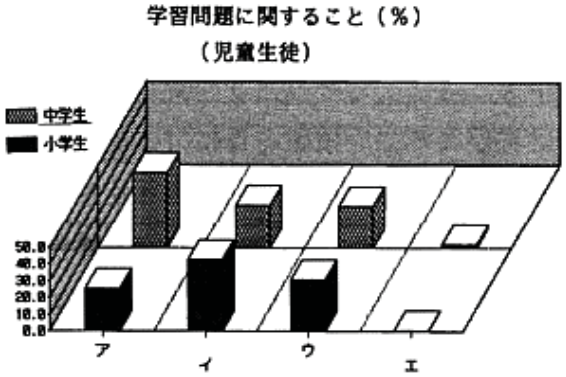
実施時期	平成６年10月24日から11月5日まで							
調査形式	質問紙法							
対　　象	教員	小学校	中学校	高等学校	児生童徒	小学校	中学校	高等学校
		82人	68人	67人		496人	780人	1,208人

(3) 集計結果の分析と考察

【小学校及び中学校】

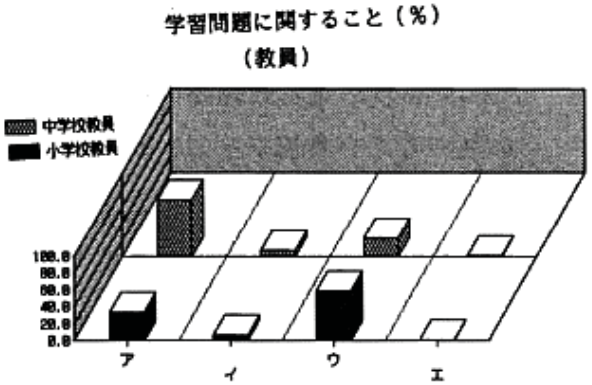
① 学習問題に関すること

社会科の学習に意欲を持って取り組むようになるには，どのような学習問題がよいと考えていますか。



ア　先生が作った問題
イ　自分たちで作った学習問題
ウ　先生といっしょに作った学習問題
エ　その他

あなたはふだんの授業の中で学習問題をどのように作っていますか。



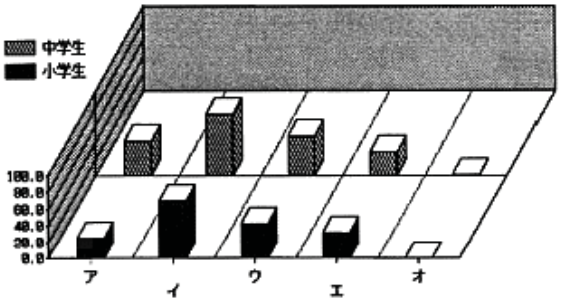
ア　主に教師が作る。
イ　主に子供が作る。
ウ　子供と教師が話し合って作る。
エ　その他

小学校では，子供が「イ　自分たちで作った学習問題」を望んでいるのに対し，実際の授業においては，「ア　主に教師が作る。」と「ウ　子供と教師が話し合って作る。」ことがほとんどであり，違いが見られる。社会的事象と子供の生活とのかかわりの中から子供の問題意識を醸成し，学習問題が設定できるような手だてが望まれる。中学校では，「ア　先生が作った問題」の方が意欲をもって取り組めると回答している生徒が半数近く（45.9%）見られる。また，学習問題を教師が作っていると回答している教師が68%おり，普段の授業の中で，教師主導の学習問題作りが行われていることがうかがわれる。前提となる事実認識をもとに，生徒の問題意識が高まるような資料の選択や提示の工夫が必要である。

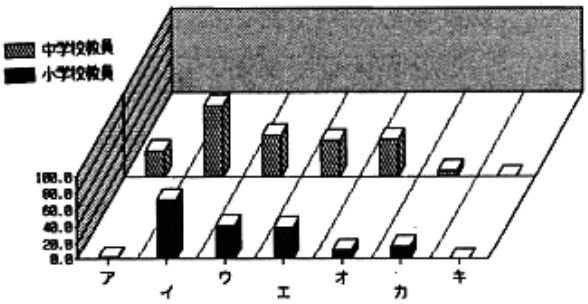
② 学習活動に関すること

学習問題を調べていくのに，どのような学習活動がしたいですか。（二つまで回答可）	あなたは，学習問題を解決するため主にどのような学習活動を多く取り入れていますか。（複数回答可）

学習活動に関すること（%）
（児童生徒）



学習活動に関すること（%）
（教員）



ア　先生の説明を聞く。
イ　教科書や資料集などで調べる。
ウ　ビデオ,テレビ,写真などで調べる。
エ　見学やインタビューをして調べる。
オ　その他

ア　教師の説明を聞く学習活動
イ　資料をもとに調べる学習活動
ウ　作業的，体験的な学習活動
エ　新聞作りなどの表現活動
オ　話合い活動
カ　観察，調査などの学習活動
キ　その他

どんな学習活動をしたいかということについて，小学校では「イ　教科書や資料集などで調べる。」「ウ　ビデオ，テレビ，写真などで調べる。」「エ　見学やインタビューをして調べる。」と回答している子供が多い。小学校教師も授業の中で，主に資料をもとに調べる学習活動や作業的，体験的な学習活動を取り入れている。子供の社会科学習に対する期待と実際の授業にそれほど大きな違いは見られない。小学校教師は中学校教師と比べ，話合い活動を取り入れている割合が少ない。問題解決の方法や結果の情報を子供が互いに交換する場を設定することによって，子供の社会的な見方・考え方を広めていく手だての工夫が必要である。教師の説明を聞く学習活動は，中学校と比べて少ない。これは，普段の授業の中で，１単元１サイクルの問題解決的な学習や多様な体験的活動を取り入れた展開の工夫がなされているためと考えられる。

中学校では，学習活動に対する生徒の期待は小学校と同じような傾向が見られるが，「ア教師の説明を聞く学習活動」の割合が小学校の2.2%と比べ,中学校が31.1%と多くなっている。これは，生徒に，自分で調べることよりも効率的に学習内容を覚えようとする意識があるためと思われる。中学校教師は，「イ　資料をもとに調べる学習活動」や「オ　話合い活動」を主に取り入れている。これは，１時間の問題解決型の学習が多いので，資料を中心とした問題追究の授業構成が多くなっているためと思われる。また，「ア　教師の説明を聞く学習活動」が小学校に比べて多いことから，単元１サイクルの問題解決的な学習を構成し，生徒の問題意識に基づく追究の場の設定や作業的，体験的な活動の導入によって，生徒の主体的な学習活動を促す手だてが望まれる。

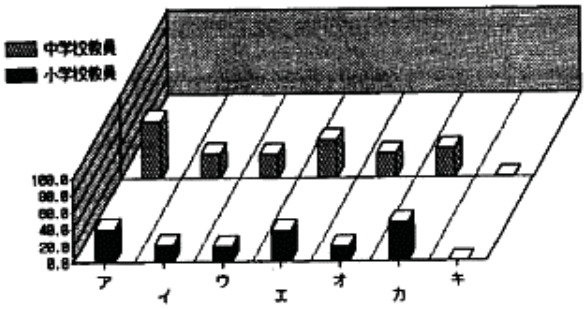
③ 自ら考え，判断する力の育成に関すること

小学校では，自ら考え，判断する力を育成するために，学習問題の設定や多様な学習活動等，様々な工夫をしていることが分かる。しかし，学習計画作りについて心がけている教師が，中学校の教師に比べて少ない。問題解決をしていくためには，解決の見通しをもつことが大切である。子供が自分の問題意識に基づいて学習問題を作り，それを解決していく方法を考える場を設定していくことが課題である。

中学校では，学習問題の設定に工夫していると回答した教師が多く，事実認識から生徒の問題意識を醸成するため手だてを重視していることがうかがわれる。しかし，せっかく学習問題作りに工夫をしても，それを生徒が自らの力で解決していけるように学習過程の工夫を図っていかなければならない。さらに，生徒が問題追究の過程で多様な視点から調べることによって，自己の見方・考え方が深められるよう，資料の準備や教育機器の活用を図っていくことが望まれる。

あなたは，「自ら考え，判断する力を育成する」ために，特にどのような手だてをとっていますか。　（複数回答可）

自ら考え，判断する力の育成に関すること（%）
（教員）



ア　自ら調べられるように，学習問題の設定に工夫している。
イ　見通しのもてる学習計画作りを心がけている。
ウ　資料をたくさん準備して授業に望んでいる。
エ　話合いや考える場を設けている。
オ　ＶＴＲやＯＨＰなどの教育機器の活用に取り組んでいる。
カ　作業的，体験的な活動を多く取り入れている。
キ　その他

④ まとめ

○　小学校及び中学校では，学習問題作りについての児童生徒の期待と教師の行っている実際の授業に違いが見られる。事実認識の中から児童生徒の問題意識を喚起し，切実感のある学習問題が設定できるような手だてを工夫する必要がある。

○　小学校では，子供が期待する学習活動と実際の授業にあまり違いは見られない。中学校では，教師が授業の中で説明をする学習活動が小学校に比べて多く，単元１サイクルの問題解決型の授業の構成や作業的，体験的な活動の導入を図り，生徒が主体的に学習に取り組めるような手だての工夫が望まれる。

○　小学校では，自ら考え，判断する力を育成するために，学習問題設定場面の工夫をしたり，多様な学習活動が取り入れたりしている。しかし，児童自らが調べ，まとめ，考えながら自己の社会的な見方・考え方を広めていくためには，問題解決に向けての見通しをもたせていく必要がある。中学校では，学習問題設定場面での工夫が重視されている。しかし，生徒が自らの力で問題追究に当たれるようにするため，多様な資料の準備や解決方法の見通しをもたせる場を設定していくことが今後の課題である。

【高等学校】

① 社会科の授業に関すること

あなたはどのような社会科の授業を望んでいますか。

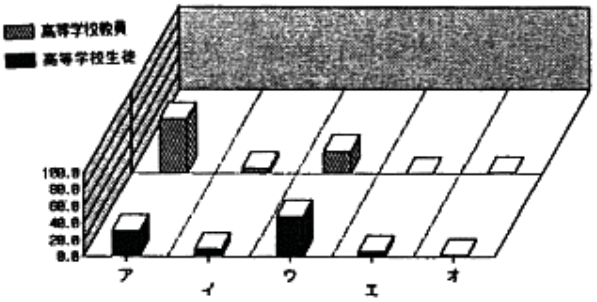
ア　先生の説明だけの授業
イ　学習課題をつくって，資料などで調べる学習を取り入れた授業
ウ　先生の説明と調べる活動の両方を取り入れた授業
エ　調べる活動を中心とした授業
オ　その他

あなたはどのような社会科の授業をしていますか。

ア　教師の説明だけの授業
イ　学習課題などをつくって，資料などで調べる作業を取り入れた授業
ウ　教師の説明と調べる活動を取り入れた授業
エ　調べる活動を中心とした授業
オ　その他

生徒の多くが何らかの「調べる活動」を望んでおり，「教師の説明だけの授業」を望んでいる生徒は，32.0%である。その反面，教師の65.7%が説明だけの一斉授業をしている。また，「調べる活動を中心とした授業」については,教師は0.0%となっている。このことからも，調べる活動を取り入れた授業がより一層望まれているといえる。

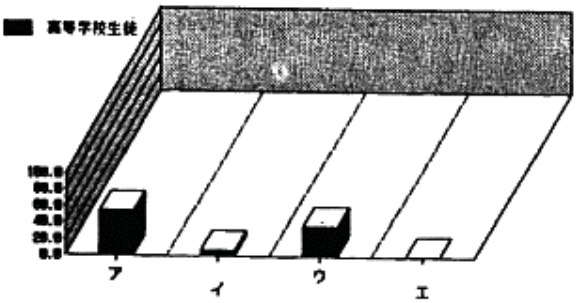
社会科の授業に関すること（%）



② 学習課題の取り組みに関すること

あなたは，社会科授業において，学習課題をつくってそれに基づいて調べることをどう思いますか。

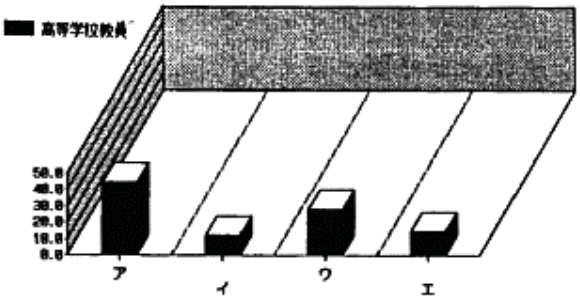
学習課題の取り組みに関すること（%）



ア　大切だと思う。
イ　大切だとは思わない。
ウ　どちらともいえない。
エ　その他

１時間あるいは単元の学習課題をつくって，それに基づいて調べていく授業についてどのように思いますか。

学習課題の取り組みに関すること（%）



ア　主体的に取り組み，学力も身に付くので重要である。
イ　主体的に取り組まず，学力もあまり身に付かないので重要ではない。
ウ　主体的には取り組むが，学力は身に付かないので無駄が多くなる。
エ　その他

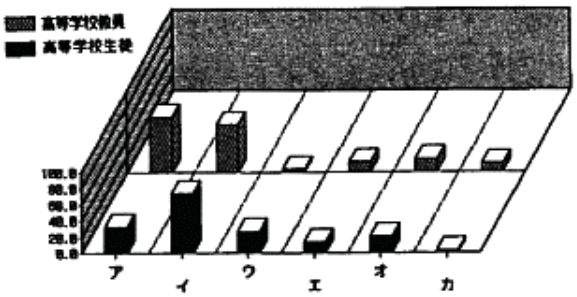
課題について調べる学習に関しては，生徒は過半数が大切と思っており，教師の方も44.8%が重要であると考えている。「無駄が多くなる。」「主体的に取り組まず重要でない。」を合わせると40.3%にもなる。このことから，調べる学習が単に資料等の書き写しに終わってしまうこと，授業の展開が思うようにいかないことなどへの危ぐを抱いているのではないかと思われる。

③　学習課題と意欲的な追究活動に関すること

あなたは社会科授業で，どのようなときに意欲をもって学習課題を調べてみたいと感じますか。	あなたは，社会科授業で，生徒がどのようなとき意欲をもって取り組んでいると思いますか。
ア　現在生じている社会問題や身近な問題などを学習したとき イ　自分の好きな課題について学習したとき ウ　実際に，調査，見学をしたとき エ　レポート作成を取り入れたとき オ　学習後，新たな疑問がでたとき カ　その他	ア　現在生じている社会問題や身近な問題などを学習したとき イ　自分の好きな課題について学習したとき ウ　実際に，調査，見学をしたとき エ　レポート作成を取り入れたとき オ　学習後，新たな疑問がでたとき カ　その他

生徒の授業での意欲は，「好きな課題についての学習」を中心として「現在の社会問題や身近な問題についての学習」「調査や見学を取り入れた学習」において発揮される。それに対して教師の判断では，「調査や見学を取り入れた学習」の割合が極端に低くなっている。このことは，教科書を離れた体験的学習があまり取り組まれていないことが原因だと思われるので，生徒の興味・関心を生かす工夫が必要と考えられる。

学習課題と意欲的な追究活動に関すること（%）



④　まとめ

調査結果によると，教師主導型による一斉授業から脱却し，課題をもうけ調べる学習活動がもっと望まれているようである。そのためには，次の点に留意して授業の工夫や改善が必要であると考えられる。

○　生徒が興味・関心をもち，意欲的に取り組める身近で具体的な学習課題，しかも，社会的事象」と深くつながり発展させることが可能な学習課題を設定する。

○　学習課題を調べ追究するための手だてや方法，まとめ方などを具体的に提示し，主体的に活動できるような方向性をもたせる。

○　調べたことをもとに意見を出し合って考える場を設定し，課題の本質に迫れるような思考力・判断力の育成に努める。

3　授業研究の実践

【授業研究１】　小学校第５学年「伝統的な技術を生かした工業」

(1)　授業の構想

「自ら調べ，まとめ，考える力を育てる」という本研究のテーマに迫るためには，子供が社会的事象を自分自身や自分の生活とのかかわりから調べ，さまざまな疑問や問題意識をもって社会的事象の意味を主体的に追究していけるような学習を展開する必要がある。

本単元では，社会的事象に進んでかかわり，自分自身の問題意識をもとに，主体的に問題解決ができるような授業を展開する。問題をつかむ段階では，笠間焼の特色調べややきもの作りの体験を通して，子供一人一人の驚きや疑問をもとにしながら学習問題を作る。調べる段階では，問題別グループごとに分かれて学習を進める複線型の学習過程を構成する。また，見学をしなければならないという必要感や切実感に支えられた見学学習の場を設定する。まとめの段階では，調べ学習の成果を教え合う学習活動を通して，自分で調べたことを友達の調べたことと比較したり関連づけたりしながら，伝統的な工業としての笠間焼のもつ意味を様々な観点からとらえられるようにしたい。

(2)　指導の手だて

ア　体験的な学習活動を通した問題発見の場づくり

体験的な学習活動を通して，問題発見の場を設定する。まず，同じ形の素焼前の作品，素焼の作品，完成品などに触れ，やきものの大きさや重さの違い，工程の秘密に目を向けさせていく。そして，驚きや疑問を問題発見カードに書き込む。次に，実際にやきもの作りをする活動を取り入れる。実際にやきものを作る活動を通して，やきもの作りの難しさや技術の秘密に気付かせ，伝統工業としての笠間焼きのもつよさに着目させたい。

イ　問題別グループによる複線型の学習過程

子供一人一人の興味・関心を生かし主体的な追究ができるよう複線型の学習を展開する。そのために，同じ学習問題の子供同士でグループを編成する。これらのグループごとに，教室や図書室で資料による調べ学習を行い，問題解決に当たるようにする。そして，資料で調べたことをお互いに教え合う学習活動をとり入れ，自分の考えを深めることができるようにする。

ウ　子供の必要感・切実感に基づく見学学習の設定

資料による調べ学習の後，さらに深く問題を追究するために見学学習を取り入れる。教室や図書室で調べたことでは分からないことを整理する。そして，資料で調べ足りないところを整理したり，資料に書いてあることが正しいかどうか検討したりすることによって，実際に見学して調べてみたいという気持ちが起きるような場の設定をする。教師側で見学学習の時間を設定するが，子供の必要感や切実感に支えられて見学活動ができるよう弾力的な見学計画を立てる。見学は，「笠間焼探検」とし，子どもが調べたい観点に基づいて窯元や窯業団地をグループごとに自由に調査できるようにする。

エ　子供同士がかかわり合う場の工夫

調べたことをまとめる段階では，調べた結果や調べて考えたことなどの情報を交換することによって，子供同士がかかわり合う場を多く設定する。笠間焼の資料から調べたことや見学して分かったことなどをグループ内や他のグループの子供と教え合い，笠間焼に対する自

分の見方や考え方を広められるようにする。そして，友達の調べたことと自分の調べたことを比べながら，「もっと調べなければならない。」「こんなことを調べてみたい。」という新たな問題をもつことによって，子供の問題意識を高めることができるようにしたい。

(3) 学習指導案

① 単元　伝統的な技術を生かした工業　―笠間焼―

② 目標

ア 総括目標

伝統的な技術を生かした工業のさかんな地域や生産のようすを進んで調べて，原料や土地の条件，技術などを生かして生産していることを理解することができるようにするとともに，伝統的な技術を生かした工業製品の持つ意味について考え，これからの伝統的な技術を生かした工業の発展に関心をもつようにする。

イ 観点別目標

〈社会的事象への関心・意欲・態度〉

・ 身近にある伝統的な技術を生かした工業のさかんな地域や生産のようすに関心をもち，意欲的に調べようとするとともにこれからの伝統的な技術を生かした工業の発展について関心をもち，自分なりに考えようとする。

〈社会的な思考・判断〉

・ 伝統的な工業の見学や製作過程の体験を通して，伝統的な技術を生かした工業製品のもつ意味について考えることができる。

〈観察・資料活用の技能・表現〉

・ 実物，写真，パンフレットなどの資料や製作過程の体験・見学を通して，生産の様子や伝統を守ろうとしている人々の工夫や努力をとらえ，それらを適切にまとめたり，表現したりすることができる。

〈社会的事象についての知識・理解〉

・ 伝統的な技術を生かした工業生産が，原料や土地の条件，技術などを生かして生産していることや，これらの生産に従事している人々の工夫や努力などについて理解することができる。

③ 学習計画（10時間）

学習過程	時	主な学習活動	評価の視点			
			関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能	知識・理解
問題をつかむ	1	○伝統的な技術を生かした工業製品について調べる。	・伝統的な工業製品に興味をもち，調べようとする。（観察・ワークシート）		・資料集，やきものなどを使って調べることができる。（観察・ワークシート）	・伝統的な工業製品の主な種類と分布が分かる。（発表）
	1	○同じやきもので，素焼のものと製品を比べ違いを見つける。 ○やきもの作りをし，問題を発見する。	・やきものを比較し違いを発見しようとしている。（観察） ・問題を発見しようとしている。（学習カード）	・比べる視点を考えようとしている。（学習カード）	・やきものを作る人になったつもりで作る。（観察）	
	1	○問題を整理・分類し，学習問題を作り，グループごとに吟味する。	・自分で学習問題を作ろうとしている。（観察・ワークシート）	・問題を整理し・分類し，学習問題を考える。（観察・ワークシート）		・自分の調べたい問題が分かる。（ワークシート・発表）
調べる	4	○問題追究グループごとに問題解決に当たる。 ○窯元見学をする。	・意欲的に問題を調べようとする。（観察・ノート） ・意欲的に見学する。（観察）	・笠間焼に従事している人々の工夫や努力について考えようとする。（観察・学習カード）	・必要な資料を収集活用し，問題解決に当たろうとする。（観察）	・笠間焼の製作工程や従事している人々のようすが分かる。（観察・ノート）
まとめる	1	○見学で調べたことをまとめる。	・見学のまとめをしようとする。（観察）		・調べてきたことをもとにまとめることができる。（観察・ノート）	
	1本時	○まとめたことを教え合う。	・調べたことを進んで教え合おうとする。（観察）	・伝統的な技術を生かした工業のもつ意味について考える。（カード）	・教え合ったことをまとめることができる。（観察・カード）	・笠間焼の製作工程や従事している人のようすが詳しく分かる。（カード）
	1	○新聞などにまとめる。	・調べたことを自分なりにまとめ工夫して表現しようとする。（観察）	・自分で考えたことをまとめることができる。（観察・作品）	・資料を自分なりに工夫し，作品作りができる。（観察・作品）	・笠間焼の特徴や工程，人々の工夫等がまとめられる。（観察・作品）

④ 本時の学習

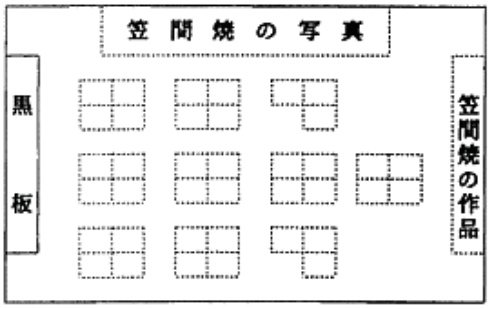
ア 目標

笠間焼探検で，新しく発見したことをお互いに教え合う活動を通して，笠間焼に対する自分の考えを深めることができる。

イ 準備・資料

見学ノート，笠間焼，情報交換カード，笠間焼の作業工程の写真

ウ 展開

学習活動	教師の支援・評価
1 笠間焼について調べたことを確かめる。	・笠間焼の写真を見ながら，前時までの学習活動や内容の確認をする。
2 本時の学習のめあてを確認する。 笠間焼探検で，新しく発見したひみつをお互いに教え合おう。	・本時の学習のめあてをつかみ，見通しをもつことによって意欲的に取り組めるようにする。
3 見学して新しく発見したひみつをお互いに教え合う。	・前時でまとめたノートや見学時の感想を紹介し，教え合う視点をつかめるようにする。
(1) 自分で今まで調べてきた笠間焼ひみつ発見カードの内容を確認する。 ・調べて分かったこと ・自分で考えたこと ・新しく見つけた疑問	・自分で調べてきた笠間焼ひみつ発見カードを見て，調べて分かったこと，自分で考えたこと，新しく発見したことをもう一度確認し，友達に伝えるための準備をする。
(2) グループの中で，調べてきたことを確認し合う（学習形態と学習のための環境構成） 	・自分で調べたことで曖昧な所や不確かな所を，同じグループの友達同士で，確かめ合う。 ・授業の前に，だれがどのグループで調べていたか分かるようにグループ別に色分けしたリボンを渡し，左腕の上の所に付けておくようにする。 ・伝えた後，友達から聞かれて答えられない時は，同じグループのだれの所に行って聞けば良いか分かるように，同じグループの友達の調べた内容を簡単にメモしておくようにする。 ・自分で調べたことや考えたことがうまく伝えられない子供には，どこでつまずいているのか話を聞き，つまづいているところを補足説明し，できるだけ子供が自信をもって友達に伝えられるよう援助する。
(3) 見学して新しく発見したひみつをお互いに自由に席を移動しながら教え合う。  	・話を聞きたい子供の所に自由に行き，お互いの発見や驚きなどを教え合えるような雰囲気作りをする。 ・多くのグループの子供と教え合っている子供や，調べたことと自分の考えをきちんと整理して伝えている子供を称賛し，活動への意欲づけをする。 ・話を伝えるだけでなく，疑問点や質問事項があれば聞くようにし，それをもとに話し合いが深められるようにそれぞれの集団を回りながら助言する。 ・できるだけ自分で調べたこととの共通点や友達の発見の良さはどこか意識しながら聞けるよう助言する。 評 自分で調べたことや発見した笠間焼のひみつを教え合おうとしていたか。また，友達の意見を自分の調べたことと関連づけながら聞こうとしていたか。（観察・情報交換カード）
4 教え合ったことをもとに自分の考えをまとめる。	
(1) 友達から教えてもらった笠間焼のひみつをプリントにまとめる。 ・新しく分かったこと ・自分で調べたこととかかわりのあること	・友達から教えてもらって新たに知ったことや驚いたことをプリントに整理し，笠間焼について自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。 ・自分の言葉でまとめている所や考えが深まった所を認め励ますようにする。
(2) 自分で調べたことと友達から教えてもらったことをもとに笠間焼の技術のひみつや笠間焼のよさなどについて考えたことや意見をプリントにまとめる。	評 他の友達から聞いた情報をもとに，自分で調べた笠間焼についての考えや見方を広められたか。（観察・情報交換カード）
5 まとめたことを発表し合う。	・教えてくれた友達の調べた内容の良さをできるだけ認めるようにさせたい。 ・発表の苦手な子供には，事前に発表するところを確認しておき，自信をもって発表ができるよう援助する。
6 振り返りカードに今日の学習の取り組みについて振り返る。	・新たな発見や自分で調べたことについての考えの深まりが見られる発表について全体の前で称賛し，次の学習への意欲づけを図る。

(4) 授業の考察

ア　体験的な学習活動を通した問題発見

笠間焼に触れる学習活動では，焼く前と焼いた後の同じやきものを，実際に手に取って比べるようにした。やきものの色や焼く前と焼いた後での大きさの違いなどを比べ，疑問や問題点を問題発見カードに記入していた。発見した問題は，焼き物，作り方，焼き方に関するものが多かった。子供の発表や振り返りカードの内容に「自分でも作ってみたい。」，「どんなふうにすると作れるのかな。」という子供の願いや思いが表れ，笠間焼に対する興味・関心が高まってきたことが分かった。

資料１　子供の学習問題の変化

焼き物作りのなかで出てきた問題	学習計画で考えた問題	様々な調べようとした問題	学習の最後に考えた問題
○ 最初に笠間焼を作ったのはだれなのか。	○ 笠間焼を作ったのはだれなのか。	○ 久野半右衛門の子そんはどこにいるのか。	○ 久野さんの家では先祖代々笠間焼を作っているのか。
○ 何年しゅ業すればプロになれるのか。	○ 笠間焼を広めたのはだれなのか。	○ 跡つぎ問題はおこってないのか。	○ 久野さんの家では今だれがうけついでいるのか。
○ どうしてしぶい色しかないのか。	○ 笠間焼はどのようにうけつがれてきたのか。	○ 色は変わってきているのか。	○ 久野さんは笠間焼を作ることに不満はないのか。
○ 焼くと色が変わるのか。	○ これからどのようにしていきたいのか。	○ なぜ重いのか。	○ 久野さんの願い。
○ なぜ焼いた方が重いのか。	○ どのように形が変わってきたか。	○ 今はかまを使っているのか。	○ 跡つぎ問題はおこらないのか。
○ ね段はどうやって決めるのか。	○ 色はどのように変わってきたのか。	○ かまは使わなくなったのか？その理由は。	○ 今後どのように変わっていくのか。
○ なぜ笠間焼は高いのか。	○ 今と昔のね段のちがいはどのくらいあるのか。	○ 今と昔作り方は変わったのか。	
○ 色はどうやって作るのか。	○ 今はどのように作っているのか。	○ 機械でも作っているのか。	
○ ろくろを使って作るのか。	○ 昔はどのように作っていたのか。	○ いつごろからお店がふえてきたのか。	
○ どうやってピカピカにするのか。	○ 今と昔作る時間は同じか。	○ みなさんの願い	
○ どのようにして形を作るのか。	○ 今はお店がふえているのかへっているのか。		
○ 何度の熱でねっするのか。	○ 土は笠間の土100%なのか。		
○ 1個作るのに何時間かかるのか。	○ 昔はそうだったのか。今はちがうのか。		
○ 何時間焼くのか。			
○ お店ではどのようにして作るのか。			
○ 焼くとどうして固くなるのか。			
○ 焼き上がるとどうして重くなるのか。			
○ 1件のお店で1日どのくらいできるのか。			
○ 土はどこからとれるのか。			

実際にやきものを作る活動の中では，なかなか自分の思うような作品が作れないことから，やきもの作りの難しさや笠間焼に従事している人の技術のすばらしさを実感することができた。資料１の子供の学習問題の変化を見ると，やきもの作りをして，「働く人」，「歴史」，「原料」，「作り方」などの様々な観点から，自分なりに問題を発見し，学習問題を作っている。

実際にやきものに触れたり作ったりする体験活動が，笠間焼に対する子供の興味・関心を高め，笠間焼と自分とのかかわりの中で，切実な問題発見の契機となっていることが分かる。

イ　課題別グループによる複線型の学習過程

子供たちの話合いによって，調べたいと考えている問題を観点ごとにいくつかに分け，グループを編成した。そして，グループごとに学習問題，調べる内容や方法について話し合わせた。

資料２のように，「笠間焼の歴史を探ろう」グループの

資料２　自分の学習問題について調べたノート

どのようにうけつがれてきたか。
○江戸時代（宝永年間1772～1781）箱田市（笠間市）の久野半右衛門が信楽の陶工、長右衛門のしどうで始めた。

田中友三郎（笠間焼きを広めた）
○1839年（天保10年）岐阜県のぶ土の家に生まれた。
○最初は東京で仕事をしてた。
○1861年（文久元年）22才の時に笠間にきた。
○「箱田焼」「宍戸焼」とよばれていた。
○友三郎はそれを江戸（東京）で「笠間焼」という名で売り始めた。
○岐阜の焼物よりよく売れる。
○海外でもはん売してた。

中で，笠間焼がどのようにして受け継がれてきたのかという学習問題を作った子供は，笠間焼の歴史をパンフレットや図書室の資料をもとに調べた。このように，グループごとに自分が調べたい問題について笠間市の社会科副読本やパンフレットなどを使って調べた。

資料１の子供の学習問題の変化のように，やきもの作りを通して作られた「最初に笠間焼を作ったのはだれなのか。」という問題が，資料によって調査するうちに，「久野半右衛門の子孫はどこにいるのか。」と具体的な問いに深まっている。

このように，子供の問題意識や興味・関心に基づき，学習の内容，方法，まとめ方を複線化したので，子供は調べ学習に意欲的に取り組み，新たな問題を発見することができた。

ウ　必要感・切実感に基づく見学学習の計画

グループによる見学

資料による調べ学習をすすめていく中で，「やっぱり見学に行かないと調べられない。」「インタビューしたい。」などの声が高まってきた。そこで，見学に行って調べる問題を明確にし，問題に対する予想を考えて窯元見学に行った。グループごとに，資料では調べられないことや資料調査で出てきた新たな問題を，窯元見学や働いている人へのインタビューによって調査していた。調べる問題や調査の目的が子供なりに明確にとらえられていたため活発な活動が展開された。見学調査の中で，土に年齢があることや土の成分によって焼き上がりが違うことなど新しい発見が見られた。働いている人にインタビューしたり，仕事の様子を実際に見たりしたので，働く人の工夫や技術のすばらしさにじかに触れることができた。

資料１の子供の学習問題の変化からも分かるように，見学前の「久野半右衛門の子孫はどこにいるのか。」という問いが，見学調査によって「久野さんの願い。」「今後笠間焼はどのようにかわっていくのか。」という新たな問いに変わり，自分なりに新たな学習の方向を見付け出していることが分かる。このように，子供の目的意識を明確にし，必要感・切実感に支えられた見学学習を展開することは，学習活動を主体的なものにするうえで有効な手だてと考える。

調査結果の教え合い

エ　子供同士がかかわり合う場の工夫

まとめの段階である本時では，１対１や１対２の小集団を作り，笠間焼探検で調べてきたことをお互いに教え合った。資料３の情報交換のまとめからも分かるように，教えてもらったこ

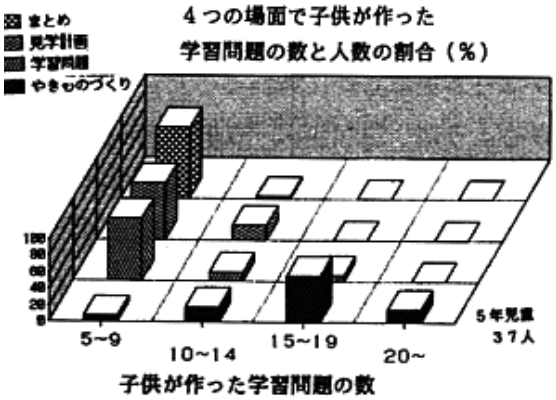
とから友達の調査の仕方を知ると同時に，笠間焼が受け継がれている背景をとらえている。教えるために調べたことを自分のものにしようと考えたり，教え合ったことをもとに，もう一度考え直したりすることによって，笠間焼に対する自分を考えを深めていることが分かる。

オ　まとめの新聞作り

まとめの新聞作りでは，これまでの学習で学んだことを生かし，学習内容を自分なりに再構成して笠間焼き新聞を作成していた。資料４の子供の作った笠間焼の歴史新聞から分かるように，子供同士でかかわり合ったことをもとにして，「わたしと笠間焼」の欄に笠間焼に対する自分の思いを表現していた。また，「もっと調べてみたいこと」の欄から，新たな問題を発見していることが分かる。

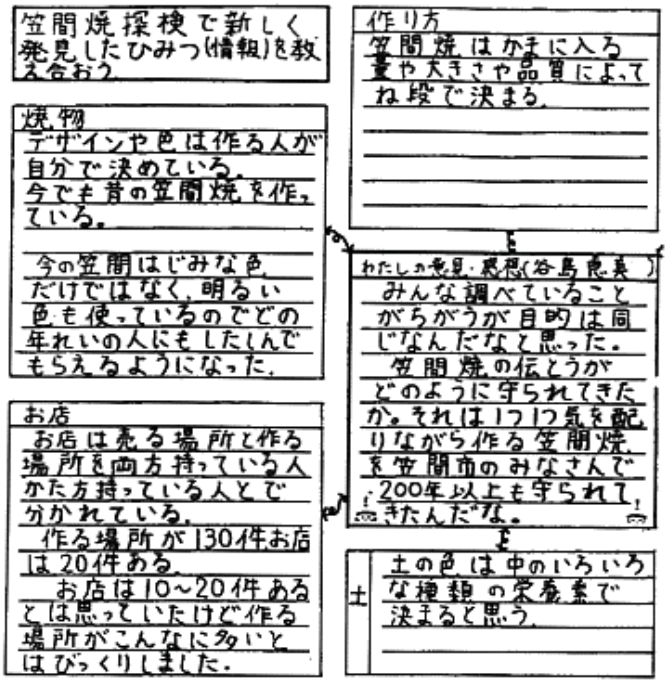
学習後も問題意識が高まり，窯元に手紙を出してさらに追究し続ける子どもの姿が見られた。

資料５　子供の作った学習問題の数



カ　子供の問題意識の深まり

資料３　情報交換のまとめ



資料４　子供の作った笠間焼の歴史新聞

資料１の子供の作った学習問題と資料５の子供の作った学習問題の数を学習過程の進行とのかかわりから分析すると，体験的な活動を通して作られた子供の学習問題は，多種多様で拡散的なものであるが，学習が進むにつれ，自分の学習問題が焦点化され，質的に深まってくる様子が分かる。問題解決的な学習の中で，自分の問題を見付け，自分なりに解決方法を考えながら自分のよさを生かして追究していけば，子供の問題意識が深まり，自分の見方・考え方を広めていくことができると考える。

【授業研究２】　中学校第３学年公民的分野「経済とわたしたちの生活」

(1) 授業の構想

昨年度からの継続研究である「自ら調べ，まとめ，考える力を育てる社会科学習指導の在り方」のテーマに迫るためには，生徒が社会的事象とのかかわりの中で，既習事項や生活経験をもとに学習問題を作り，問題解決に向けて学ぶ方法を自分なりに考え，解決の過程で社会的事象のもつ意味を主体的にとらえられるようにしていくことが大切である。

本単元では，消費生活の中に見られる身近な問題を取り上げることから授業を展開する。導入では，３種類の缶コーラを提示し，値段の違いに着目させる。大きい缶の方が安い理由を考えさせることを通して，価格と流通に対する問題意識を高めたい。また，日常の買い物の経験をもとに，「賢い消費者になるために私たちはどんなことを知っていなくてはならないのか」という観点から全体で追究する問題を設定する。

缶コーラの価格の秘密や日常の買い物経験の成功例や失敗例をもとに，生徒が作成した学習問題を観点別に集約し，グループを編成する。問題追究の過程では，個人あるいはグループで資料を選択したり活用したりする場を構成する。調べたことを発表する場面では，事前に他のグループの発表資料をあらかじめ読んで問題点を整理し，自分なりの考えをもって発表が聞けるようにする。さらに，発表会の中で，グループや個人で調べた内容や考えと，他のグループの調べた内容や考えを比較・検討する中で出てきた新たな疑問や問題点について追究する場を設定する。

(2) 授業の手だて

ア　問題設定場面の工夫

導入で缶コーラの大きさと価格の違いや疑似食品について話し合い，流通と価格の違いについて着目させる。また，通信販売などの買い物に際しての成功例や失敗例を発表し，買い物に対する関心を高めることによって，「賢い消費者になるために知っておかなくてはならないことは何か」という学級全体で追究する問題を設定する。生徒はその問題を受け，個々に学習問題を設定し，さらにグループごとに追究問題をつくるようにする。

イ　観点別グループ編成の工夫

生徒が設定した学習問題を「家計の収入と支出」「商品の流通」「商品と価格」「毎日の生活と物価」「消費生活におけるトラブル」等の観点別に整理し，同じような学習問題を設定した生徒同士でグループを編成する。グループの中で，一人一人の学習問題の調査方法を確認し，調査結果のまとめ方を話し合い，協力して調査追究ができるようにする。

ウ　自分の考えを問い直す場の設定

調査したことを発表する場では，事前に，自分たちの発表内容，活用した資料，予想される質問などをグループ内で話し合い，調査方法や調査結果を見直すようにする。調査結果の発表の場では，グループ内の役割分担を決め，発表，回答，質問等グループ全員が主体的に授業に参加できるようにする。また，他のグループがまとめたレポートについて質問事項をまとめる。このように，発表の場を通して，自分たちの発表内容と他のグループの発表内容を比較したり関連付けたりして，自分の考えを問い直し，見方や考え方を広められるようにする。

エ　新しい問題を追究する場面の工夫

発表内容を相互に検討する中で出てきた新たな問題や疑問点を追究することによって，「賢い消費者になるために私たちはどんなことを知っていなくてはならないか」ということを様々な角度からとらえられるようにしたい。

(3) 学習指導案

① 単元　経済とわたしたちの生活

② 目標

ア　総括目標

消費者保護の立場から，現代社会における取り引きの多様化，契約の重要性を取り上げ，消費者として主体的に判断し，行動することが大切であることに気づかせる。

イ　観点別目標

〈社会的事象への関心・意欲・態度〉

・　消費生活を中心に経済生活のしくみとはたらきについて関心をもち，進んで調べようとすることができる。

〈社会的な思考・判断〉

・　消費生活を中心とする経済上の諸問題について考え，正しく判断することができる。

〈資料活用の技能・表現〉

・　自分の課題解決のために必要な資料を見つけ出すとともに，それらをもとに自分の考えを効果的に表現することができる。

〈社会的事象についての知識・理解〉

・　身近な消費生活を中心とした経済活動の意義とあらましについて理解することができる。

③ 学習計画（11時間）

学習過程	時	主な学習活動	評価の視点			
			関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能	知識・理解
学習問題設定・学習計画作成	1	○身の回りの様々な物の値段の比較から，よりよい買い物をするために知らなければならないことを話し合う。	・消費生活における身近な問題から，消費生活への関心や問題意識をもつことができる。（観察）	・よりよい買い物をするための方策をいろいろな面から考えることができる。（観察）		
	2	○賢い消費者になるために私たちはどんなことを知っていなくてはならないのかという学習問題を作る。 ・学習問題の設定 ・観点別のグループ編成	・問題意識をもち，自分の学習課題を設定・選択しようとすることができる。（観察・ノート）	・学習計画から，今後の学習の見通しをもつことができる。（観察）		
学習問題の追究	3 4 5	○学習問題を追究する。 ・家計の収入方法と支出 ・商品の流通としくみ ・商品の価格の役割 ・毎日の暮らしと物価 ・消費生活における課題	・学習問題解決のための計画をグループで話し合うことができる。（観察）	・問題解決のための方法や柱だてを考えることができる（観察）	・問題解決のために必要な資料を収集することができる（観察）	
	6 7	○調査・追究のまとめと発表するための準備をする	・発表資料を進んで作成することができる。（観察）		・発表内容を分かりやすくまとめることができる。（発表資料）	・自分の発表内容を理解することができる。（ノート）
	8	○他グループの資料を検討し，疑問や質問点をまとめるとともに，自分たちのグループに対して予想される質問への対応を考える。	・他グループの資料について関心をもって，疑問点を考えようとしている（観察）	・他グループの資料からおおまかに内容をつかみ，疑問点を考えるとともに質問に対する対応を考えることができる。（ノート）		
まとめ・発展	9 10 本時	○観点別グループによる発表と意見の交換をする。 ○他のグループの発表を聞き，自分の考えをまとめる。	・発表資料を工夫し分かりやすく発表しようとすることができる。（発表）	・発表内容を聞いて疑問点など自分の意見をもつことができる。（観察・発表）		・発表を聞き，他の観点別グループの調査内容を理解することができる。（観察）
	11	○前時に新たに生まれた課題や問題点，解決できなかった内容について調べる。	・前時にでた新たな問題点について追究しようとしている。（観察）			・解決できなかった事項についての説明を理解することができる（ノート）

④ 本時の学習

ア 目標

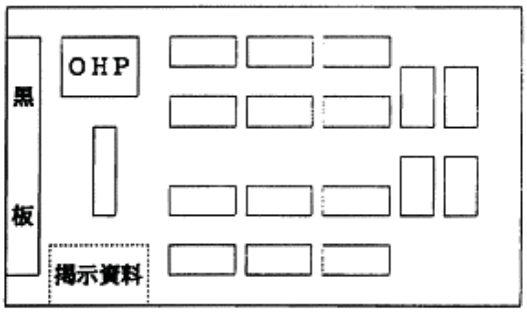
○ 「賢い消費者になるために」という視点から各グループごとに調べてきたことについて，工夫しながら発表資料を作成し，他の生徒達に分かりやすく説明することができる。

○ 発表や話合いを通して，消費生活について様々な角度から考え，賢い消費者になるための自分の考えをまとめることができる。

イ 準備・資料

発表レジュメ（プリント），掲示用発表資料，発表記録・感想メモ，学習振り返りカード

ウ 展開

学習活動	／ 教師の支援・評価
1 本時の学習課題について確認する。 賢い消費者になるために，わたしたちはどんなことを知っておかなくてはならないのか，各グループでまとめたことを発表しよう。	・事前に各グループの発表予告をしておき，質問や疑問を考えておくなど，発表に対する関心を高めておくようにする。 ・グループで発表する内容は，プリント資料として配付して事前に知らせておき，質問点や良く分かった点をまとめておくようにする。発表時は，できるだけ多くの生徒から意見が出るようにしたい。
2 資料をもとに，各グループごとに発表する。発表をを聞く側は，発表内容の要点をノートにまとめる。 (1) 各グループごとに発表する。 （発表内容） ・家計の収入と支出について ・商品の購入 ・商品の流通と価格のしくみ ・毎日のくらしと物価 ・消費者生活の問題 （発表の形態）  	・１グループの発表時間は，５分程度とするよう前もって連絡をしておく。 ・発表資料については，前時の学習時に次のような点を助言しておく。 ア 発表の中心資料となる図やグラフは，後ろの生徒の席からも見えるよう大きく分かりやすく作成すること。 イ 生徒一人一人に配るレジュメは，要点を分かりやすくまとめること。 ウ 調査結果や考えだけでなく，どのような方法で調べたのかも簡潔に発表できるようにすること。 エ できるだけ他のグループと違った発表形式を工夫すること。 オ 賢い消費者になるためにどんなことを知っておかなければならないのかという視点で発表をまとめること。 ・できるだけ生徒が調べたことを発表できるよう発表内容についての教師のコメントを控え，生徒同士の意見の交換によって話合いが深まっていくようにしたい。
(2) 発表内容について意見を交換する。 ・発表内容についての疑問や問題点 ・調査方法についての意見 ・発表内容についての自分の考え ・賢い消費者になるための必要なこと	・発表についての質疑に終わってしまうような場合は，自分はどう考えるのか意見を出し合うよう，話の進め方について助言する。 評 グループで調べたことを，適切な資料で表現し，分かりやすく発表できる。（観察，発表資料）
(3) 相手の意見から学んだことをまとめる。 ・新しく知った事実 ・調査方法の良い所 ・賢い消費者になるための方法 ・友達の発表で自分の考えが広まったこと ・さらに調べなければならないこと	・生徒のつぶやきなどを取り上げ認めることによって，考えや意見を自由に交換できるような雰囲気作りをする。 ・生徒同士が相手の意見を互いに尊重し合いながら話合いができるよう，相手の考えの良さを取り上げながら話し合いをしている生徒を称賛していきたい。
3 わたしたちが賢い消費者になるための考えをまとめる。 (1) 感想をまとめる。 (2) 発表した友達の考えに対する自分の意見を友達のノートに書く。 4 本時のまとめと反省をし，次時の学習について確認する。	・自分で調べたことと友達の発表内容を取り入れながら，賢い消費者になるために大切なことを考え，感想にまとめるようにする。 評 自分で調べたことと関連づけながらグループの発表を聞き，賢い消費者になるため知っておかなければならないことや新たに調べなければならないことを明確にすることができる。（発表記録・感想メモ）

(4) 授業の考察

ア　問題設定場面の工夫

350ml(110円)，500ml(88円)，350ml(39円・輸入USA)の３種類の缶コーラを提示したところ，量の多い方がなぜ値段が安いのかという疑問が生まれた。また，通信販売で自分の注文した服が予想と違っていたことや疑似食品にだまされた経験などを話し合うことによって，消費生活に対する生徒の問題意識を高めることができた。買い物の成功例や失敗例をもとに，「賢い消費者になるためにはどんなことを知らなければならないか」という学級全体で追究する問題を設定した。

生徒の身近な問題を取り上げ，それを生徒の生活経験とかかわらせることによって，問題点や疑問点を意識させることは，切実性のある学習問題を設定する上で，有効な手だてであった。

イ　生徒の意欲的な追究活動

資料６の「生活…そして価格」について調べたグループは，スーパー，コンビニエンスストア，個人商店，デパート七店で卵やポテトチップスなど７種の商品の価格を調べた。また，価格の決め方や安売りの値段の決める基準をインタビューするなど，意欲的な追究活動が行われた。このグループは，自分の足で実際に調査した結果をまとめたので，具体的で説得力のある発表を行った。

資料７のように，劇化したグループは，自分で関心のある釣り道具を取り上げ，釣具が日本のものより海外のものの方が安いことに目を付け，海外の通信販売の仕方を劇にして発表した。

生徒の切実な問題意識が追究意欲を

資料６　「生活…そして価格」を調べたグループの発表と話合いのようす

次に，実際にお店を見回って，商品の価格を調べてみました。調べたお店は，サティー，イトーヨーカドー，サンユー，セブンイレブン，カスミストア…です。調べた項目は，卵オレンジジュース，コカコーラ，ティッシュペーパー…です。（値段の考察→セブンイレブンは，２４時間営業なので値段を高くしても売れるのだと思います。また，自営業の場合は，仕入れ価格が決まっていてある程度のもうけが必要なので，値段が高いのです。）

次に資料の３を見てください。お店に①どうやって値段を決めているのか。②安売りの時の値段を決める基準はどのようにして決まるのか。を聞いてみました。①の回答として，どの店にもバイヤーさんがいて，それらの人が話し合って決めるということが分かりました。セイコーマートでは，本部で決めているとのことです。そこで，本部ではどのように決めるのか聞いたところ，「すいません。それは言えないんですよ。」という返事が返ってきました。どうやら企業秘密のようです。（略）…。賢い消費者になるためには，買い物によって店を選んだり，広告を良く見て買うことです。

質：Ａ班Ｍ男
「他の店と比べてとありますが，これはどのような手段で決めているのですか。」
答：直接店に行って調べるそうです。
（スパイ行為だ！と声が上がる。）
質：Ｈ班Ｏ男
「ＮＴＴなどの独占的な価格を決めることのできる会社はどのような基準で価格を決めているのですか。」
答：いろいろな会社があるので基準が違うと思います。ＮＴＴの価格は，独占価格ではありません。

資料７　劇化したグループの発表例

○　発表・テーマ「通信販売と個人輸入」 Ｅ班Ｋ
通信販売について説明します。通信販売の報告媒体には，新聞，雑誌，テレビなどのマスメディアや折込みちらしダイレクトメールの他に，ダイヤルＱ２やダイレクトメールつきのカタログ，ちらしなどがあり，多様化が進んでいます。通信販売は居ながらにして買えるというために利用者が増えていますが，反面業者と連絡が取れない，頼んだものと違ったなどのトラブルが急増しています。通信販売の手段として，注文するときは郵便，電話，ファクシミリなどで申し込めます。販売は郵送したり，配達され送られてきます。訪問販売と違って通信販売はクーリングオフが適用されませんので，必ず，解約，返品の条件を確認しておきます。次に，個人輸入について説明します。海外の通信販売カタログを利用して，個人が直接外国の通信販売会社や販売店などに注文し商品を購入することを個人輸入といいます。そのしくみは資料の個人輸入のところを参考にしてください。僕たちは，個人輸入についての劇をします。

Ｋ：もしもし，こんにちわ。Ｉ：こんばんわ。Ｋ：そちら，アメリカのフィッシングセンターですか。
Ｉ：はい，そうです。Ｋ：日本では，このルアーが１，５００円ですけど，そちらはいくらですか。
Ｉ：はい，３００円です。Ｋ：それでほんとうに釣れるんですか。
Ｉ：今までに，５０㎝以上のブラックバスが釣れました。
Ｋ：これはいくらですか。日本では，１，２００円でした。Ｉ：これに似たので３９９円です。
Ｋ：それじゃ，これ全部買います。
Ｉ：２，９０６円になります。運賃，１，０００円で合計３，９０６円になります。Ｋ：では，送ってください。
Ｔ：ピンポーン，やまねこやまとの宅急便です。……ハンコください。ありがとう。
Ｋ：どれどれ，ルアーが８個で２，７９６円。うん，いい買い物をしたなあ。これで僕も賢い消費者だ。

Ｑ：Ｂ班Ｋ－日本で買うよりアメリカで買った方がなんで安いんですか。　Ａ：たぶん，ドルの価値が安くなったからだと思います。Ｑ：Ｃ班Ａ－返品はできるのですか。　Ａ：返品はできます。
Ｑ：－送料はどうするのですか。　Ａ：消費者が払います。　Ｑ：注文してからどのくらいの時間で来るんですか。　Ａ：船便で２カ月かかります。飛行機なら１週間で届きます。でも，飛行機にすると送料がだいぶかかります。　Ｑ：Ａ班Ｍ－日本への輸入時に関税はどうなっているのですか。　Ａ：国によって違います。

かきたて，さらに，自分で調査をして新たな事実を発見していくことが，次の活動への意欲付けになっていることが分かる。

ウ　発表内容の検討による問い直しの場

事前に，他のグループの発表内容を把握し，感想や疑問点をまとめた。さらに，まとめた個人の感想や疑問点についてグループで話し合い，発表の時間に質問できるようにした。また，質問を受ける側は，事前に予想される質問を考え内容をまとめていたので，適切な応答が見られた。他のグループや友達の意見を聞いたり質問したりすることから，友だちの意見や考えに主体的にかかわり，自分の調べた内容や考えを様々な角度からとらえ直すことができたと考える。

エ　新たな問題を追究する場面の工夫

自分の調べた内容や考えを様々な角度から比較・検討する中で，新たな疑問や問題点について調べる時間を設定した。自分の調査事項の足りないところを補充したり，新たな観点から調べ直したりした。単元の終了時に生徒から，「もっと調べたい。」「面白くなってきたのにもう終わりか。」と言った声が聞かれた。

オ　自己評価と学習の振り返り

単元全体の学習を見通し，１時間ごとの学習の取り組みを振り返るために資料８のような振り返りカードを使って自己評価を行った。振り返りカードに，「自分の考えをもてた。」「自分なりにまとめることができた。」「調べるのは大変だったけれど勉強したなと久しぶりに実感することができた。」という記述が見られる。身近に見られる事象とのかかわりから学習問題を作り，追究方法を自分なりに考え，調査結果や考えを友達同士で相互に検討し合い，新たな事実や問題を発見し続けていく（思考し続けていく）ことによって，「自ら調べ，まとめ，考える力」を育てることができるのではないかかと考える。

調査結果の発表

資料８　学習の振り返りカード

『賢い消費者になるために』

3年 3組　番　氏名

時間	月日	学習の振り返り	既定	やや既定	もうすし既定	既定	自分なりによく取り組めたこと	先生の確認
2時間	9/13	・興味や関心をもって、学習に取り組めたか。	⊙	・	・	・	ノートに自分の意見をかいた。	鈴木
		・ノートに意見や疑問点を自分なりに見つけ、書き表すことができたか。	・	⊙	・	・	話し合いがよくできた。	
	9/14	・興味や関心をもって、学習に取り組めたか。	⊙	・	・	・	自分の考えをもてた。	鈴木
		・自分なりに疑問をつかみ、学習の見通しがもてたか。	⊙	・	・	・		
6時間	9/19	・調べることを自分なりにとらえて学習できたか。	・	⊙	・	・	協力してできたけど、少し時間をかけすぎてしまった。	鈴木
		・調査の観点に必要な資料を集めることができたか。	・	⊙	・	・		
	9/20	・調べることを見かけをとらえながら学習できたか。	⊙	・	・	・	でんわをできていろいろたりできた。協力してできた。	鈴木
		・必要な資料を見つけ、調べることができたか。	⊙	・	・	・		
	9/21	・まとめかたを決め、まとめる観点に取り組めたか。	⊙	・	・	・	いろいろな資料を集めて自分たちなりにまとめることができた。	鈴木
		・調べたことを自分の言葉でまとめられたか。	⊙	・	・	・		
	9/27	・資料の写しだけでなく、イラストなどを取り入れるなど、自分の言葉でまとめられたか。	⊙	・	・	・	たし、くわしくまとめることができた。	鈴木
	9/28	・調査内容をくふうなどに相談できるよう、工夫してまとめられたか。	・	⊙	・	・	いっしょうけんめい、まとめられたし、協力してできた。	鈴木
	9/29	・他のグループの資料を見て、疑問点や質問点を考えることができたか。	・	・	⊙	・	まとめるのに少し時間がかかってしまった。明日がんばる	鈴木
3時間	9/30	・まとめたことをわかりやすく発表することができたか。	・	・	⊙	・	発表は自分たちたちがわかっているだけでなかなかは、わかり	鈴木
		・友達の発表内容の見方を理解できたか。	・	⊙	・	・		
	1	・まとめたことをわかりやすく発表することができたか。	・	・	⊙	・	にくい発表をしてしまったと思う。質問に対してはよく答えることができた。	鈴木
		・友達の発表内容の見方を理解できたか。	・	⊙	・	・		
	10/9	・新たな疑問点や問題を見つけることができたか。	・	・	・	⊙	新たな疑問点や問題を見つけることができなかった。	鈴木

この学習で、意欲的に取り組めたことは何ですか。
物価をしらべた中でも、外国との物価の比較をしらべるのに、いろいろな所へ電話をしたり、資料を集めたりして、意欲的に取り組むことができた。

この学習に対する感想を書くなさい。
調べ学習ということで、はじめは自分にできるかどうかが心配だったけれど、友達と協力して、やっていくうちに、自信がついてきて、自分でまとめられるようになってきた。調べたりするのが大変だったけれど、とても楽しくて、勉強したなとひさしぶりに実感することができた。

【授業研究３】　高等学校第３学年地理「食料需給における国際化の進展」

(1) 授業の構想

「食料の生産と消費」の中で取り扱う食料需給については，国際化の進んだ現在において地球的な課題となっている。食料需給は発展途上国と先進国では異なった事情があり，人類が協力して解決に当たらなくてはならないことであると考える。食料需給は日本だけの問題ではなく，国際社会との関連の中で食料需給の問題をとらえさせたい。しかし，あまりにもスケールの大きい問題のため，ややもすると自分からかけ離れたもののように思われがちである。特に，日本の食料輸入が穀物中心であるにもかかわらず，日本国内で加工され，食料品として製品化または家畜の飼料とされていることなどから，食料需給の問題は実感としては感じられないのではないだろうか。そこで，自分たちの身近な生活の場に見られる食料需給の国際化の現状を，生徒自身が主体的に調べることによって，他人ごとではなく自らにもかかわる問題としてとらえられるようにしたいと考えた。

(2) 指導の手だて

食料需給については，事前に世界の農牧業と水産業を学習し，世界のどの地域でどのような作物や水産物が生産されているのかを理解できるようにした。人類が生きていくための地球的な生産活動であるため，大変間口の広い学習ということもあり，教科書･地図帳･統計資料･資料集･プリント学習などを活用するように配慮した。

今回の授業に当たっては，生徒自身による調査活動ができるようにするため，６～７人でグループを編成し，七つのグループ別学習活動を行った。国際化に伴う輸入食品の増加の実態を，学校近くのスーパーマーケットの協力を得て，各グループの代表が品目別に調査し，写真に撮る作業から始めた。

調査した輸入食品は，どこの国から何点輸入されているかを品目別に集計し，大白地図に写真をはって，視覚的に食料品輸入の実態を確認できるようにした。

さらに，多くの食料品を輸入に頼っている日本の食料需給の現状を踏まえ，どのような原因が考えられるかを，グループ別に調べてみた。テーマとしては日本の農業問題･水産業問題･円高・貿易摩擦，消費者のニーズの多様化，流通業者の海外進出及び伝統的食文化などを提示し，生徒自身が協力して調べ，発表することができるようにした。

最後に，生徒一人一人が感想をまとめ，日本の食料需給の現状と将来について自分たちが調べた内容をもとに考えられるようにした。

(3) 学習指導案

第３学年　　地理学習指導案

①　単元　食料需給における国際化の進展

②　目標

○　世界の食料需給は，世界各地域の自然環境及び伝統的食生活と関連が深いことを理解できるようにする。

○　発展途上国の歴史的条件などによる食料需給の問題と，先進国の農業政策が，国際社会に与える影響を考えることができるようにする。

○　強い経済力を背景に，世界最大の食料輸入国となった日本の食料問題について，国際化の進展と関連して考えることができるようにする。

③　学習計画（３時間）

ア　発展途上国の食料需給・・・・・・・・・１時間

イ　先進国の食料需給・・・・・・・・・・・１時間

ウ　日本の食料需給・・・・・・・・・・・・１時間（本時）

④　本時の学習

ア　目標

○　輸入食料品を調査することによって，主要穀物だけではなく，身近な食料品についても国際化が進んでいることを理解する。

○　食料需給の国際化が日本の農業及び水産業に与える影響を理解する。

イ　資料

(ｱ) 輸入食料品集計用紙，(ｲ) 大白地図，(ｳ) 資料プリント，(ｴ) まとめ・感想プリント

ウ　本時の展開

学　習　活　動	資料	指導上の留意点　※評価
1　本時の学習課題について確認する。 食料品の国際化を確認し，日本の食料需給の背景について考える。		・　国際化の進展により，輸入食料品がスーパーマーケットでも販売されていることを身近かな資料を通し確認できるようにする。
2　身近に販売されている輸入食料品について調べる。 ○　グループごとにスーパーマーケットで調査した輸入食料品の内容を発表し，まとめる。 ○　大白地図に調査した輸入食料品の写真を輸出国別にはり付ける。	(ア) (イ) (ウ)	・　グループごとに調査した輸入食料品の商品と輸出国名を発表し，各自が集計できるようにする。 ※　発表を聞き，集計することができたか。 ・　大白地図に輸入食料品の写真をはることにより，視覚的に確認できるようにする。
3　日本が穀物及び多様な食料品を輸入し，販売する背景について考える。 ○　グループごとに分けて調べたテーマについて話し合いまとめる。 円高の推移，消費者のニーズの多様化 伝統的食文化，日本の農業問題 貿易摩擦，日本の水産業問題 食品流通業者の海外進出 ○　各グループごとに内容を発表する。		・　原料としての穀物輸入についても補足説明する。 ・　事前にグループごとに調べておき資料プリントを併用して要点をまとめることができるようにする。 ※　日本の食料問題が，国際化の進展と密接な関係にあることを理解することができたか。
4　日本の食料問題について感想をまとめる。	(エ)	・　日本の食料需給の問題についても考えられるように助言する。

(4) 授業の考察

各班の代表が調査した輸入食料品の品目は，1班－菓子と清涼飲料水，2班－缶詰，3班－調味料としこう品，4班－野菜，果物と冷凍食品，5班－水産物，6班－肉類，7班－乳製品である。この調査をもとに授業を展開した。

今回の授業では調査方法や授業形態に工夫をしてみたが，食料品の国際化の実態を理解することができたのか，日本が穀物及び多様な食料品を輸入し，販売する背景について考えることができたのか，また，授業に対してどんな感想をもったか，などを授業後実施したアンケートによって生徒の反応を確認し，今後の課題としたい。

資料9　輸入食料品の調査と感想

○　調査した輸入食料品の品目の種類についてどう思いましたか。
　・思っていたより多い　58%　・多くも少なくもない　34%
　・思ったより少ない　8%

○　輸入食料品の商品数が多いと感じた国はどこですか。
　・アメリカ　70%　・中国　24%　・タイ　6%

○　輸入食料品の中で多いと感じた商品は何ですか。
　・野菜類　20%　・缶詰　16%　・肉類　12%　・魚介類　12%
　・清涼飲料水　12%　・果物　10%　・コーヒー7%　・菓子　7%
　・乳製品　4%

○　調査した輸入食料品の全体集計はまとめられましたか。
　・まとめられた　13%　・なんとかまとめられた　47%　・まとめられなかった　40%

○　輸入食料品の写真を大白地図にはったたことは輸入国を確認する上で役立ちましたか。
　・役立った　50%　・少し役立った　45%　・役立たなかった　5%

○　班ごとに与えられたテーマについて，調べ，話し合うことができましたか。
　・よくできた　34%　・少しできた　56%　・できなかった　10%

○　班ごとに調べ，発表した内容の中で最も興味をもったテーマは何ですか。
　・円高の推移　13%　・消費者のニーズの多様化　10%
　・伝統的食文化　10%　・日本の農業問題　20%
　・貿易摩擦　15%　・日本の水産業問題　5%
　・食品流通業者の海外進出　10%
　・特になし　17%

○　食料品の国際化が進んでいることを確認できましたか。
　・確認できた　77%　・少し確認できた　21%　・確認できなかった　2%

○　日本が多くの食料を海外に依存していることが理解できましたか。
　・理解できた　66%　・少し理解できた　32%　・理解できなかった　2%

○　日本の食料は日本で自給したほうが良いと思いますか。
　・そう思う　34%　・そうは思わない　64%　・わからない　2%

資料10　日本の食料需給についての感想

・外国からあまり輸入しないで自給できれば良いと思うけど，日本は食料だけでなく資源なども輸入に頼っているので心配。
・日本人はあまりぜいたくしすぎだと思う。
・外国は自由貿易を日本に求め，日本は「コメの市場開放」を受け入れた。不安の声や安いコメへの期待感もある。
・僕は日本のコメはうまいし，価値があると思う。
・小さな国なのにいろいろな国からたくさんの食料を輸入していることに改めて驚いた多分長期保存用の薬品なども食べているのと思うので少し気をつけてみようと思う。
・輸入品が多いことを実感した。
・日本の生産者の問題や安全性などの問題はあるが，消費者から見れば安くて質のよいものが輸入されてくれればうれしいことだと思う。
・エビの90％以上が輸入なのには驚きました。
・国内では間に合わないものがたくさんあるが，なるべく国内のものが良いと思う。
・日本が多くの食料を外国に頼っているということは前から知っていたが，これほどとは思わなかった。
・外国からの輸入に頼り過ぎている，日本は少しずつ自給率を上げたほうがいいと思う
・国土が狭く，食料を日本だけでまかなうのは無理なことなのでどうしようもないと思う。
・輸入品が多いということは，他国とのつながりも大きいということなので良いと思う
・あまり普通の人は輸入品とかそういうのを気にしていないような気がする。
・食料品の国際化が進んでいるのがわかった。
・安くて新鮮なら問題ない。

調査については，写真撮影は許可されたが，できればビデオ撮影も実施し，クラス全体で視聴することによって，より関心を高めたかった。スーパーマーケットから許可されなかったため撮影できなかったが，流通業界の競争の激しさを生徒自身が肌で感じることができたと思う。

実際に調査してみて，輸入食料品の種類の多さには驚いていた生徒が多かった。輸入相手国としてアメリカを挙げる生徒が特に多く，日米経済関係の一端が理解できたのではないだろうか。

集計作業に関しては，発表者の声が聞き取りにくかったり，発表の要点を書きとめることに慣れていないこともあり，まとめることに苦労したようである。輸入食料品の写真を大白地図にはったことは視覚的に確認する上で役立ったようである。また，大白地図に写真をはる作業で，生徒が改めて国の位置を確認できたことにも役立った。

日本の食料自給の現状については，日本の農業問題の将来への不安や，輸入食料品に対する量的，質的な不安があるようだが，安くて質のよいものであれば，国内のものでも輸入品でもどちらでもよいと答えるものが多かった。生活の中で，輸入食料品が特に意識せずに身近なものになっているのではないかと思われる。

資料11　授業の形態についてのアンケート

○　グループ別学習と一斉授業ではどちらのほうがよいですか。

・グループ別学習　42%　・一斉授業　16%　・どちらともいえない　42%

○　自分たちで調べる学習についてどう思いますか。

・多くして欲しい　24%　・時々ならやりたい　68%　・説明と板書中心がよい　8%

○　その理由を書いてください。

※多くして欲しい

・楽しい授業でみんなで協力して学べるから

・自分で調べれば忘れないで覚えていると思うから

・自分で調べるという学習方法の方が多く学べ，調査は社会勉強にもなる。

・一人で授業を受ける時より理解できるから

※時々ならやりたい

・毎回ならいやになるが，時々なら身に付く。

・変化があって授業にあきない。

・たまには自分たちで調べたという達成感を味わうのもよいと思う。

・毎回ではうるさくて授業にならないがたまには気分がリフレッシュできる。

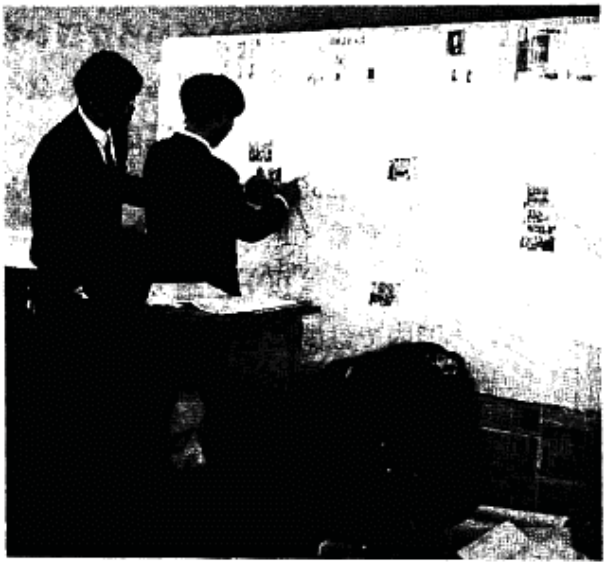
・多いと自分たちで調べたことしかくわしくわからない。発表は聞いていてもすぐ忘れる。毎回では集中できない。

※説明と板書中心がよい。

・授業の後で自分で調べればよい

・他人まかせでは全然やらないから

輸入食料品の写真をはっている様子



調べたことを発表している様子

これまで説明と板書にプリントを組み合わせるだけでの授業で通してきたため，今回の授業に生徒は戸惑っていたようである。スーパーマーケットでの調査については，初めのうちは消極的なグループもあった。しかし，実際に調査を始めてみるとおもしろくなってきたようで，グループ学習も楽しそうに協力して調べる姿も多く見られた。自ら調べる学習は教師側の準備の負担が大きいことや，課題を適切に設定することの難しさを感じたが，「多くして欲しい」「時々ならやりたい」と望む生徒は92%にも達することから，今までの授業を反省する良い機会となった。生徒自身が学習課題を解決するためには，自ら調べ，考え，発表することが大変重要であることを分かった。

【授業研究４】 高等学校第３学年政治経済「女性差別について」

(1) 授業の構想

「政治経済」では日本国憲法についての学習を行う過程で，人権について学ぶが，この人権については，平等権・自由権・社会権を主に学ぶことになっている。その内，平等についての学習をこの授業のテーマに設定した。特に差別問題については，現在においても様々な差別が残っているのが実情である。そこで，こうした差別について，生徒たちが自ら調べ，考える授業を計画した。初めは，現在日本国内に残る差別の調査を考えたが，生徒は女子だけということもあり，女性差別にのみテーマを絞ることになった。

(2) 指導の手だて

授業の形態としては，６～７人からなる七つのグループをつくり，各グループが自分たちのテーマを決めて調べる形態をとった。なお，グループの編成については生徒たちが自由に行った。さらに，各グループがどの様な女性差別について調べるかについては，生徒たちより幾つかの事項が提示され，その内七つを選んで各グループが自分たちのテーマとした。その七つは，学校・職場・社会生活・言葉・漢字・歴史及び世界に見られる差別である。次に，それぞれの分野を代表者を中心に調べるという作業を始めた。

生徒は約１か月前より調査に入ったが，教師も必要に応じて指導・助言を行った。その間，生徒たちは図書室などを利用し，必要なことを調べたが，ここで幾つかの相談を受けた。その中には，一般には差別だと言われていても自分たちは差別とは考えないものはどうするか，などの質問があった。

なお，各グループは資料として，新聞・雑誌・百科辞典・国語辞典・漢和辞典などを利用したり，また家族に聞くなど様々であった。

(3) 学習指導案

第３学年　　政治経済学習指導案

① 単元　法の下の平等

② 目標

○ 一人一人の人間はかけがえのない存在であり，その人間を尊重する精神があらゆるものの基本であることを学習すると共に，基本的人権の一つである平等権の重要性について身近な例を通じて理解できるようにする。

○ 日本国憲法ではどのように平等が保障されているかを条文を通して確認し，また，現在でも残る差別を具体的事例を通じて学習し，特に女性差別については生徒自身がその実態を調べ自覚を深めることができるようにする。

③ 学習計画（３時間）

ア 人間の尊重と法の下の平等・現代に残る差別・・・１時間

イ 女性差別について・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間（本時）

ウ 差別解消のために・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

④ 本時の学習

ア 目標

女性差別を多様な視点より調べることで差別解消への意識を高める。

イ　資料

(ｱ) 新聞記事のコピー

(ｲ) 各人が女性差別について調べた用紙

(ｳ) 各グループでまとめる用紙

(ｴ) メモ・感想等記入用紙

ウ　本時の展開

学　習　活　動	資料	指導上の留意点　※評価
1　本時の学習課題について確認する。 日本国憲法の第14条を確認するとともに，女性差別は日常生活の中にまだ残っていることを認識する。	(ア)	・　現在でも様々な女性差別があることを新聞記事コピーなどにより確認し見通しがもてるようにする。
2　各グループ内でメンバーが事前に調べた内容をまとめる。 学校・職場・社会生活・言葉・漢字 歴史・世界 3　各グループの代表が調べた内容を発表する。 A班－学校にみる差別 B班－職場にみる差別 C班－社会生活にみる差別 D班－言葉にみる差別 E班－漢字にみる差別 F班－歴史にみる差別 G班－世界にみる差別 4　他のグループからの質問を受ける。	(イ) (ウ)	・　グループで調べたことを話し合い学習課題に生徒一人一人が参加し，まとめようとする意欲がもてるようにする。 ・　まとめ方が分からず作業が進まない班には机間指導を通してグループでお互いに協力し合えるように助言する。 ・　自分たちが調べた内容と比較しながら他のグループの発表が聞けるようにする。また，自分の知りたいことや疑問に思ったことは質問ができるように配慮する。 ※　各グループの発表は要領よくできたか。また，他のグループの生徒は発表をよく聞き要点・疑問点をメモできたか。
5　それぞれ感想記入用紙にまとめる。	(エ)	※　発表内容全体を的確に把握するとともに，自分なりの意見・感想をもてたか。

(4) 授業の考察

ア 女性が差別されていると考え，発表した主な内容は以下のとおりである。

A班 「学校にみる差別」

クラスの名簿で男子が先になっている。体育の授業においてブルマで受ける。家庭科を以前は女子だけが履修したなど。

B班 「職場での差別」

女子の就職差別がある。昇給率が男子より低い所もある。定年が男子より早い職場もある。雑用などに使われるなど。

C班 「社会にみる差別」

家庭の家事全般，女人禁制の山や神社，ミス・コンテストなど。

D班 「言葉にみる差別」

女三人寄ればかしましい，女の腐ったよう・・，女だてらに，女々しいなど。

E班 「漢字にみる差別」

プリントを配付し，女偏のつく漢字は悪い意味のもつものが多いことを発表（例・・・奴，妾，妖，妬，婢，嫌など）

F班 「歴史にみる差別」

魔女裁判，三下り半，婦人参政権など。

G班 「世界にみる差別」

一夫多妻，一人っ子政策，紛争国での女性への暴行など。

資料を調べる生徒

調べたことを発表している様子

以上，生徒たち自ら資料にあたり調べたものである。発表は，内容を羅列して述べるだけでなく，各事項について簡単な説明を加えてくれたため，他方面にわたり様々な女性差別があることを知ってくれたようである。

イ 生徒の感想,意見について

感想は概ね「女性差別の多さ，歴史の古さに驚いた」というものが多かったが，発表されたものについて，特に差別とは思えないという下記のような感想を述べている生徒もいた。

・学校での差別で発表されたことは差別だと思わない。

・チャドルは差別ではなく文化だと思う。

・差別は女性側にも責任がある。差別されやすい言動はなくすべきだ。

・平等といっても男女差はあるのだから男らしさ，女らしさを大切にしたい。

・ミス・コンテストなどは出たい人が出ているだけだから別に問題はない。

また，授業についての主な感想は次のようなものである。

・自分で調べたことなので差別問題に興味をもった。

・友人の調べたことなので面白かった。

・日ごろ何気なく使う言葉や文字に差別的なものが多く驚いた。

・職場での差別は将来就職のことを考えると嫌だ。

などであった。

資料12　女性差別についての感想

一口に女性差別と言ってもかなりあるのだなとと思った。
大きな問題から，どうでもいいような問題まで，とりあげるとキリがない。民族的なことや，宗教的なことなどなぜこんなにも女性は差別をうけつづけていて，いつになったら解決されるのだろうと思った。でも，"差別"だと騒ぐわりには，重労働など男性におしつけたりして，都合の悪いことは知らん顔していることもあるのでそれがなくならないかぎり完全な解決はされないと思う。　もし，差別の始まりの原因が体力の違いからだとしたら，体力より知力の必要な政治なども男性が中心になって行われてきたのだろうと思った。もしかしたら，女性は狩猟などたいへんなことを男性におしつけて，女性達は楽をしてきたから，男性が力をもつようになって，女性差別がめばえるようになってきたのかもしれない……などと思ってしまった。　けれど，今も昔から根づよく残っているので，少しずつでも差別はなくなっていってほしいと思った

ウ　次の時間に実施した授業について

授業研究後の授業では「女性差別発生の理由」，「女性差別をなくすために」という２点について話し合った。差別が生まれた理由について次のように感想を述べている。

資料13　差別が生まれた理由について

人間が出現した時，男，女という性ができた時から差別が始まったと思う。まずこの時すでに男性と女性の体力，筋力の違いがあり男性は"力"があるということから狩りは男の仕事となり女性はその補助役となった。そしてこの習慣がずっと続いて今に至るのだと思う。
女性は補助役という考えが発達して生活内だけの問題ではなくなり，あらゆる面において，このような考えが根づいてしまった。
（政治的，社会的）

なお，差別解消のため何が必要かについての主な意見は以下のとおりである。

・差別されがちな行動をなくすとともに，女性も甘えをなくすべきだ。

・男女が互いに相手を理解し，適切な役割の分担をすればよい。

・職場での差別は職場内でなくす努力が必要である。

・男性側の意識を変えることが必要である。

・今の日本社会の仕組みが男性中心になっている。仕組みそのものを変えなければ差別の解消はできないのではないだろうか。

エ　まとめ

女性差別についての授業の準備，実施，授業後の活動について記したが，主な教師の反省点，評価できる点，生徒の調べ学習についての感想は次のとおりである。

（ア）反省点

・各グループにまとめ用紙を配付し，グループごとにまとめの時間を設けたが，これは必要なかった。

・Ｄ班での発表（言葉での差別）では，読み上げての発表だけだったのでメモしきれない生徒がいた。プリントをつくるか板書させたかった。

・１時間で実施する内容にしては多すぎたかもしれない。項目を減らすなどして余裕をもって実施したかった。

・各グループとも自分たちの調査項目についてかなり詳しく調べており，発表できない班もあった。その発表できなかった資料の活用方法を考えたい。

（イ）評価できる点

・各班とも事前の調査及び発表はよくできた。

・生徒自身が調べ，また，友人の発表であったため，女性差別問題に興味をもった。

・職場での差別については，自分が就職してから直面する問題としてとらえている生徒が多くおり将来の生き方についても考えている生徒がいた。

・当然のことと思っていたことが差別の例として上げられていた。新しいものの見方を学んだような気がする。

（ウ）生徒の調べ学習についての感想

・友達と一緒に同じことが学べるのでやる気がでる。

・自分で調べるのは大変だったが，とても印象に残った。

・調べること自体はそう大変ではないが，何をどう調べるのかが難しかった。

・友達が調べて発表したので面白く聞けた。

・百科事典で調べたがたくさん書いてあり，どの程度調べたらよいのか分からなく困った。

・たまにやるのはよいと思うがいつもいつもはやりたくない。

・結論を黒板に書いたり，プリントをしてくれた方が能率的だ。

（ア）のような反省点も残ったが，生徒たちは予想以上によく調べ，意欲的に取り組んでいた。生徒一人一人が主体的に資料調査をしたり，親に聞いたりして女性差別についての認識を深めるとともに，将来の自分の生き方についても考えることができたようである。さらに，普段行うことがないグループ学習を通じて多くのことを学べたが，特に「生徒自らが調べ考える授業」の重要性を再認識させられた。

Ⅲ　研究のまとめ

社会科においては，平成６・７年度の２年間，「学ぶ力を育てる」ことを「自ら調べ，まとめ，考える力を育てる」こととととらえて研究主題を設定し，「学ぶ方法の習得」と「学ぶ能力の育成」の二つの観点から研究を進めてきた。

社会科学習に関する意識・実態調査から，教師と児童生徒の意識のずれによる社会科学習指導上の諸問題を明らかにした。これらの結果を踏まえ，「学ぶ方法の習得」として「『自ら調べ，まとめ，考える力』の育成を図る学習過程の工夫」と「学ぶ能力の育成」として「児童生徒一人一人のよさが生きる社会的事象の追究の場の工夫」の二つの視点から小学校，中学校及び高等学校において，具体的な指導の手だてを考え，授業を実践し，分析・考察した。

小学校では，「子供自身が学習活動をつくり組み立てる」ことを基本に，①体験的な活動を通した問題発見の場づくり，②問題別グループによる複線型の学習過程，③必要感，切実感に基づく見学学習の設定，④子供相互の交流の場の工夫などを通して，子供が主体的に学習に取り組み追究し続けられるよう単元を構成した。笠間焼を実際に作ったり触れたりする中で，様々な疑問や技術の秘密に気付き，学習への関心や意欲を高めることができた。また，資料ではわからないことや教室での学習では不十分な所を，実際の見学によって明らかにしたいという欲求を持たせることにより，自分なりに目的をもって意欲的に見学活動に取り組む姿が見られた。資料で調べたことと実際に自分の目で確かめたり発見したりしたことをまとめ，友達同士で学習成果を互いに交換することによって，新たな問題や調べ足りない点を明確にし，問題意識を深めることができたと考える。

中学校では，「生徒が主体的に追究し続ける」ことを基本に，①既有の知識や経験に基づく学習問題設定場面の工夫，②追究過程における作業的，体験的な活動，③自己の見方，考え方の問い直しと新たな問題の発見の場の工夫を通して，社会的事象に対する見方，考え方を深められるよう単元を構成した。消費生活に見られるさまざまな問題を生徒の日常の生活とのかかわりの中でとらえることによって，切実性のある問題設定がなされた。そして，生徒が自分の問題を解決するために，解決方法を自分で探し，商品と価格の関係や消費者問題について自らの足で調査し考えをまとめる姿が見られた。調べた結果や結果に対する自分の考えをレポートにし，それを互いに検討し合うことによって，見方や考え方を広め，さらに追究しなければならない問題を明確にすることができた。

高等学校では，地理の学習で，食料需給の問題を，生徒が自分たちで資料を収集し，それを題材に調べるという授業の実践を試みた。調べたものについては，白地図を利用して輸出国をたどるということで，視覚的な効果もあり，生徒がより関心をもつことが分かった。政治経済の学習では，基本的人権の問題を，女性差別という問題に限定して調べる授業を女子クラスで実施した。身近にある差別から，歴史的に遡って調べたもの，そして世界の諸地域にわたって調べたもの等，実に多様な観点から調べる生徒の姿が見られた。

小学校，中学校及び高等学校の授業研究を通して，①児童生徒が社会的事象とかかわりをもつ中で，学習問題をつくり，②自分の設定した学習問題の解決方法を自分なりに考え，③追究の中で，新たな問題を発見したり，問題意識を高めたりしながら，④社会的事象のもつ意味や価値を自分とのかかわりの中でとらえられるような学習過程を構成し，児童生徒の追究の場を保障していけば，「自ら調べ，まとめ，考える力」を育成できることが確認できた。